

B05 広島県におけるツツガムシ病の発生相とタテツツガムシの初確認について

○岩崎博道・高田伸弘・矢野泰弘・上田孝典（福井医大）・

藤田博己（大原研究所）

Fact-finding of tsutsugamushi disease cases and new record of *Leptotrombidium scutellare* in Hiroshima Prefecture

Iwasaki H., Takada N., Yano Y. Ueda T. and Fujita H.

中国地方のツツガムシ病情報は少なかったが、演者らは、1998 年秋に中国山地東端の兵庫県下でタテツツガムシ *Leptotrombidium scutellare*（以下タテ）を初確認、症例も見出した。そして翌年 10 月に、広島県西部で症例を検索する機会があり、公式情報に載らない症例が数年間で 50 例以上、秋に発生していたことを知った。それで、同地域を貫流する太田川の中・上流域で見取り法、ツルグレン法および野鼠検査にてツツガムシを探索し、タテを初めて確認した。患者の血清抗体も Kawasaki 型でタテ媒介性を裏付けた。今後も同様の調査によれば、中国地方で広くタテ媒介の症例が追加される可能性を指摘したい。

共同研究者：矢野貴彦・金子 栄（広島市立安佐市民病院）

B06 兵庫県大屋町周辺のツツガムシ調査、特にタテツツガムシについて

○矢野泰弘・高田伸弘（福井医大）・藤田博己（大原研究所）・石畝 史（福

井県衛研）・馬庭芳朗（大屋町南谷診療所）

Surveys of trombiculid mites, especially *Leptotrombidium scutellare*, in Ohya-cho, Hyogo Prefecture.

Y. Yano, N. Takada, H. Fujita, F. Ishiguro and Y. Maniwa

兵庫県大屋町ではここ 10 年来、毎年 9 月から 12 月にかけて明延川流域南谷地区の住民が肘の内側や腹部にできる痒い湿疹に悩まされている。事前の聞き取りから、我々はこれはツツガムシによる刺症と予想し、1998 年秋と 1999 年春・秋に原因究明のため現地を調査した。まず、黒布見取り法で 25cm² 当たり数 10 個体の密度でタテツツガムシ(以下タテ)が大屋町中心の三町で見出された。また、秋に捕獲したアカネズミからタテを含む数種を回収した。同時にツルグレン法による土壌からの採集も試み、やはり秋にはタテを得た。したがって、同町住民の皮疹は本種によるものと考えられた。ところで、兵庫県下の恙虫病は県北部で春、淡路島と六甲山で秋の発生を見るものの、県北部の大屋町の 3 例はいずれも秋に発生している。同町における媒介種はタテと予想されるが、春に発生をみる周辺地域からはタテは採集できなかった。協力:和田山保健所